

視点

出産費用の自己負担 無償化の前提条件

骨太の方針2025は、それに先立つ検討会が幅広い関係者のヒアリングや議論を整理したのを受け、「2026年度を目途に標準的な出産費用の自己負担の無償化に向けた対応を進める」とした。検討会では、周産期医療体制の確保との両立や産科医療機関の経営実態が強調され、23年のことも未来戦略で検討するとした保険適用の導入に言質を与えることを微妙に回避している。

自己負担の無償化には、保険適用ならなおさら、出産費用の見える化が前提条件だが、出産なびで

は正常分娩の半数が収まる価格帯や室料差額程度しか開示されず、妊産婦等は請求書が来るまでいくらか払うのかわからない、病院のHPを見てもわからないと不安を語っており、出産に関し自己決定できる環境からは程遠い。

妊産婦、保険者等の理解を得るため、保険適用するなら保険適用部分と非適用部分、お祝い膳、エステ等分娩以外の区分が明確な費用・標準額の把握、混合診療の問題の制度的な整理が不可欠だが、検討会は様々な意見の羅列に終始し、骨太の方針も出産なびを拡充

するというだけで、目途とされる26年度までに検討の前提が整えられるのかどうか甚だ心もとない。

産科婦人科医会は、調査で保険適用になったら「分娩取り扱いを止める」「制度内容によつて中止を考える」という医療機関が6割もあるというが、産科医の働き方改革を考えれば、いずれ分娩施設の集約は避けられまい。分娩費用の不透明さが妊産婦等の不安の要因であり、医会も支援を求めるなら、分娩の継続を盾に取るような姿勢を慎み、費用の透明化の旗振り役を担うべきだろう。

社会保険旬報

目次

No.2972 2025年8月11日

視点

出産費用の自己負担
無償化の前提条件 3

座標

救急隊と医療機関が情報連携を強化
サイバー攻撃対応セキュリティ調査 4
患者体験・遺族調査の結果を報告
令和6年の簡易生命表を公表 5

動向

次期改定に向けたその1シリーズで
「入院」がテーマに
一急性期、包括期、慢性期入院医療 6

ジュネーヴからの便り②④

WHOのリストラ
中谷祐貴子 11

レコーダ

設立5周年記念
公開パネルディスカッション
認知症ケア最前線
—その可能性（未来研究所臥龍） 12

潮流

中医協総会が経過措置の延長など了承 ... 16
入院医療等分科会が逆紹介率など議論 ... 18
新たな地域医療構想のGLの検討開始 ... 20
2023年度社会保障費用統計 22
全国知事会が提言まとめる 24
健保連の宮永会長が危機感表明 25
「令和7年版厚生労働白書」を公表 26
MR活動の調査で23件の法令違反疑い ... 27

NEWS

協会けんぽが運営委員会で
5.8兆円超の準備金に意見 28

BOOK REVIEW

『アルプス少年 医を拓く』 31

療養の給付の取扱い 32

資料

入院（その1）「入院医療を取り巻く現状」
入院医療の概況 39

雇用・労働の動き 41

編集室・ワードカプセル 42